

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	4370201008
法人名	社会福祉法人 権現福祉会
事業所名	グループホーム 清陽
訪問調査日	平成 20 年 12 月 12 日
評価確定日	平成 20 年 12 月 22 日
評価機関名	特定非営利法人 NPOくまもと

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4370201008
法人名	社会福祉法人 権現福祉会
事業所名	グループホーム 清陽
所在地	〒869-5152 熊本県八代市場町47-1 (電話) 0965-35-0678

評価機関名	特定非活動法人NPOくまもと		
所在地	熊本市上通町3番15		
訪問調査日	平成20年12月12日	評価確定日	平成20年12月22日

【情報提供票より】(20年 11月 25日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人
職員数	16人	常勤	15人, 非常勤 1人, 常勤換算 15.8人

(2)建物概要

建物構造	木造瓦葺平屋 造り
	1階建ての 階 ~ 1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000円	その他の経費(月額)	6,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	300円	昼食	400円
	夕食	500円	おやつ	夕食に含む 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(11月25日現在)

利用者人数	18名	男性	1名	女性	17名
要介護1	0名	要介護2	5名		
要介護3	0名	要介護4	9名		
要介護5	4名	要支援2	0名		
年齢	平均 87、16歳	最低	77歳	最高	101歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	田淵内科クリニック	坂本病院	増田歯科医院
---------	-----------	------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

四季の移り変わりが五感で感じられる自然環境の中で、手入れの行き届いた庭園が近隣の保育園児や住民との交流や入居者のくつろぎの場として活用されている。日常的な挨拶が職員と入居者との間でも自然に交わされ、家族を含めた大家族のような落ち着きのあるホームである。職員は研修にも積極的に取り組み、入居者へ寄り添うケアを常に心がけている。管理者や職員間の関係もよく、チームケアや連絡体制も整備されている。今後は地域との連携構築を更に図ることによって、地域に根ざした認知症介護拠点となるような取り組みが期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	食事に関してはユニット毎の嗜好や希望を取り入れる体制とし、栄養面から考慮された献立に基づきながらも適宜入居者の希望により変更できるようにした結果、残菜の減少や食事が楽しみとして位置づけられるようになっている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員全員で取り組み、外部評価の結果を受けたのち会議を開き、課題や問題点の検討・改善に取り組む予定としている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議ではホームの近況報告・研修報告・外部評価結果報告・情報交換等がされている。認知症やグループホームについての講話によって、委員にも啓発・理解を深めるための機会としている。会議後は、職員会議を開き推進会議の意見の検討を行い、サービス向上に反映させている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時の近況報告と共に、ホーム便りや担当者による便りを毎月送付している。通院後や緊急時には電話で連絡もしている。運営推進会議には毎回別の家族の参加を依頼し、意見や要望を聞く機会として設定し、出された意見には迅速に対応できるようにしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	近隣への散歩の際には挨拶や会話に努め、ホーム付近の掃除は毎朝欠かさず行って、地域の環境美化にも努めている。ホームの建物も開放感のある趣で、行事の際には勿論、気軽に訪問してもらうように努めている。避難訓練では地域の消防団の消防車による放水訓練まで実施するなど、協力関係が出来ている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設立当初に職員で作成したグループホーム独自の「敬愛の心・感謝の気持ち・謙虚な姿勢」の理念から、具体化した運営理念を提示し、地域の中でその人らしい生活を支援できるようにしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼時に唱和したり、会議でも理念の確認をするなど、日常的に理念を念頭においた職務遂行に心がけている。掲示の場所に配慮するとともに、パンフレットにも掲載し、家族や訪問者にもわかりやすいように工夫している。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事へ積極的に参加したり、グループホームの行事には参加を働きかけている。また散歩や外出時・グループホーム近隣の道路清掃時には、挨拶や会話を欠かさない等、地域との連携構築に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員は評価の目的と意義を理解しているため、自己評価にも全員で取り組み、把握した課題は会議で討議し改善へ向けた取り組みをしている。外部評価後は結果報告を家族会や運営推進会議で行い、改善に向けてた計画を策定予定である。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に関催し、活動や職員の研修報告等が行われている。「認知症とは」「認知症の方を理解する和を広げるには」等の講話や討議もされており、理解を深めてもらっている。推進会議で出された意見等は職員会議で話し合い、サービスの向上に繋げている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ □)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	問題点や疑問点については、出向いたり、電話などによって助言や意見等をもらっている。また、グループホーム連絡会の研修では行政からの情報を得る機会としている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	近況報告を添えたホーム便りを毎月発行し、郵送や面会時には直接詳細な報告をおこなっている。事故発生時や病院受診後には電話連絡している。金銭管理については随時報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、面会時等に意見・要望・相談を聞くように配慮している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限に止め、馴染みの職員が介護できるように努めている。新規の採用職員の場合は、馴染みの職員と共に対応するようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内の勉強会・研修には職員全員が積極的に参加し、法人内外の研修にも参加し、報告会を行っている。職員のストレス軽減について十分に配慮し、環境整備に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区のグループホーム部会の研修に参加し、他のホームの職員との交流や情報交換を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ □)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	法人施設からの入居が多く、数回訪問し関係者からの情報を得ようとしている。入居前には家族にもホームを見学してもらうことにより、安心して入居してもらえるような環境整備に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の行動に合わせた声かけを行い、一人ひとりに合わせた支援に努めている。それぞれの思いや感情を常に受け止める姿勢を保つと共に、安心できる生活の場を提供できるように配慮している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「私はこうしてもらったら嬉しいシート」を作成し、全職員が把握できるように努めると同時に、日々の暮らし支援の中で、本人の希望や意向を汲み取るように心がけている。	○	様々な場面参加への支援をとおして、入居者それぞれの思いの把握方法について検討されることが期待されます。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者が本人や家族の意向を踏まえ、他の職員とも話し合いながら計画作成担当者が完成させている。作成した介護計画は家族にも説明している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な評価・見直しを行っている。本人の状況や状態変化があればその都度話し合い、的確な計画の作成に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ □)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族や入居者の要望に応じた支援を行っている。通院や外出等にも対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医の受診を支援しながら、かかりつけ医と連携した健康管理や状態等の連絡を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人・家族・かかりつけ医・職員とが話し合いを行い、全員で方針を共有している。入居時に「意思確認書」をとり、その状況の時に確認できるようにしている。	○	入居時の意志確認だけでは不十分と思われます。定期的に意志を確かめるためにも、家族との連携を図れる状態にしておくことが望まれます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりを尊重し、言葉遣いや対応に配慮しながら、プライバシーの確保に努めている。また、個人情報保護の徹底を図るため、記録類は全て事務所保管としている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの入居者ペースを把握した上で、意思を確認しながら一人ひとりに合わせた対応をしている。生活リハビリや体操なども意思を確認をしたうえで参加を支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ □)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の嗜好や季節感を取り入れた献立を、ユニット毎に職員が作成し、買い物や下準備を入居者と共に行っている。職員は介助が必要な入居者の傍らで雰囲気配慮しながら支援し、同じ食事を摂っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望や状態に合わせた一人ひとりの入浴支援を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活の中で入居者が出来る役割を支援している。洗濯物たたみや、茶碗拭き、掃除やカラオケ、編み物、ぬり絵、自家菜園の収穫等、楽しみ事も多く、庭での日向ぼっこや散歩は気晴らしともなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の食材の買い物や散歩・ドライブ・外食にも出かけている。ユニット間の相互訪問や法人施設へ行く事なども入居者の楽しみになっている。近隣の保育園へも出かけて行って、行事にも参加し交流している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵をかけずにセンサーや鈴の設置によって入居者の自由な出入りを可能にしている。職員には勉強会によって拘束に関する知識を習得させている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地元の消防団や消防署の協力で、年2回入居者参加の消防訓練を実施しているばかりでなく、通報訓練や救命救急の技術研修も受講している。事故発生時に関してもマニュアルを作成し、定期的な訓練を行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ □)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスの摂れた食事を、各入居者に応じた食事形態を提供している。食事・水分量は毎食チェックし、把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気や季節感を大切にしよう季節の花や飾り付けをしている。一人ひとりが過ごし易いようにソファなどの配置にも工夫を行い、換気・臭気・採光にも配慮がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人や家族と相談し、以前から使用されていた家具や生活用品が持ち込まれており、一人ひとりの個性的な居室作りへの支援がされている。遠方から面会に来る家族の寝具を持ち込まれる居室もあり、宿泊される事が窺われる。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 清陽
(ユニット名)	たちばな館
所在地 (県・市町村名)	熊本県八代市場町
記入者名 (管理者)	松村 邦子
記入日	平成 20 年 11 月 25 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でその意義や役割を明確に理解し「敬愛の心、感謝の気持ち、謙虚な姿勢」の理念をもとに支援を具体化している。又、「その人がその人らしく生き甲斐を持って生活できるようにお手伝い致します」を運営方針にあげている。	継続していく。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員一人一人が理念を理解するよう、解説した用紙を配ったり、各棟に掲げたり、理念の確認の為に毎日朝礼時に全員で唱和している。職員の新規採用時にもしっかり説明している。ミーティング等の会議時には全職員が理念を念頭において話し合う事を意識し取り組んでいる。	○ 一人一人自ら目標や一日の業務に対する意欲の喚起やケアの向上を目指している。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	玄関に掲示し入居相談時、入居時、利用者本人、家族に分かり易く説明している。理念、運営方針はパンフレットに記載し、施設見学等で来ホームされた地域の方々に、パンフレットを配り理解してもらえよう取り組んでいる。	○ 地域との交流行事の時にも、もっと積極的にパンフレットを配布し、理念の浸透に取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の方々に威圧感を与えない木造平屋建てで、のどかな田園風景に溶け込んでいる。職員が近隣の方と日常的な会話を交わす良好な関係を築けており、気軽に立ち寄って頂けるよう庭には季節の花や木を植え開放感のある雰囲気作りに努めている。	○ 近隣の方が気軽に立ち寄って頂ける雰囲気作りに努めているが、用事がない限り来ホームされない為、きっかけ作りを積極的に行いたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の方々の理解を深める為、地域との連携は必要であり説明と協力依頼を行い、良好な関係を築いている。地域での行事に参加するのは勿論の事、ホームでの行事等に常に情報をお送りして参加して頂いている。又、子ども達の通学路でもある為、気軽に声を掛け合う付き合いができています。	○ 今後、利用者の家の校区の敬老会等にも、参加して地域の馴染みの人達とのかかわりが継続できるよう支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	毎朝の日課となっている近隣の道路の掃除は、地域の環境美化に繋がっており、又、高齢者福祉施設への理解を深めて頂けるようホームの見学だけでなく、同法人の他の高齢者福祉施設の見学も積極的に進めている。		継続していく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価の目的を職員会議で説明し、理解している。事項評価については全職員で作成し、評価後も会議を開き、改善出来るところから実践し、問題点、改善点を「家族会」「運営推進会議」でも報告し、取り組んでいる。外部評価、自己評価の意識が常に継続できるよう、日々の生活の中で工夫している。		継続していく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は概ね2ヶ月に1回開き、情報交換、報告を行い、委員会の方々にも理解を深めて頂いている。会議の後、職員会議にて運営推進会議の意見をサービスにどんな風に繋げていくか話し合っており、改善、実施出来る事は実行している。	○	地域の方が参加されている運営推進会議をもっと活用し、地域高齢者の暮らしに役立つ話し合いの場を、積極的に設けたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	問題点や疑問点がある時は、市町村に出向いたり、電話連絡をして随時担当者の意見等を聞いている。又、グループホーム連絡会の研修の中で行政からの話を聞いたりする機会に参加している。	○	積極的に関係作りを行っていく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部の研修等に積極的に参加し、必要なケースについては、検討を行っている。全職員への普及を図る為に外部研修後は、勉強会を行っている。		継続していく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修にて、全職員が虐待について意識を持ち、維持するように話し合っている。又、入浴時等、傷やアザがないか観察するよう周知徹底している。言葉かけや精神面でも気を付けている。		職員間で常に話し合える環境作りに努めていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約に関しては、利用者や家族等と充分話し合い、疑問点や不安がなく、理解し納得してもらうまで、時間をかけて説明し、同意を頂いている。	継続していく。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者と毎日個別に話し、意見、不満、苦情を聞く機会を設けている。苦情担当者を掲示し、いつでも対応出来る様にしている。	○ 第三者委員を設けている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	急病、緊急時を除いては、利用者の暮らし振りや健康状態などは、月に1回担当者よりお手紙を書き報告したり、面会時に説明している。金銭管理については、預かり書を渡し出費がある際は必ず連絡している。些細な変化については、早期の相談と報告に徹している。職員の異動に関しても面会時や手紙で報告している。	○ 家族の面会時には、職員が必ず付き近況報告と意見を伺うよう徹底していく。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等が利用できる意見箱を設けたり、面会時に必ず職員が付いて意見を言える雰囲気を作り、話し合う機会を設けている。また、「家族会」の際には、どんな些細なことでも相談頂けるように繰り返しお願いしている。	○ 家族等から話易い雰囲気作りをしていき、意見、要望等があれば、早急に対応している。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員会議の時だけでなく随時、意見提案を出すように促している。運営者とは月1回の法人全体の会議により提案を聞く機会を設けている。半年に1回個人面談も行っている。	継続していく。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の状況や行動に対応して余裕のある人員数を確保している。また、職員の急病などにも対応できる勤務体制とし、職員同士で話し合い調整している。	継続していく。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合	職員の異動は必要最小限に止め、馴染みの職員がケア出来るよう努めている。また、新規の職員の場合は、馴染みの職員と共に対応するようにしている。	継続していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内での勉強会、研修にも職員全員で積極的に参加して、運営者の意向を把握してもらうように努めている。年度初めに、法人内の役職毎の研修を行っている。外部研修にも全職員が参加できるよう計画している。	○ 個人で研修を受ける場合も参加できるよう配慮していく。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会の実施する研修に職員は積極的に参加し、認知症介護のケアに役立て、他ホーム職員との交流をし意見交換を行っている。	継続していく。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員のための個別の休憩時間場所の確保ができています。また、法人全体の職員旅行や忘年会、歓迎会等により、ストレスを軽減してもらうよう取り組んでいる。	○ 運営者は半年に1回個人面談を行い、管理者、職員の意見等を聞き対応するようにしている。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	半年に一度個別に目標を設け、自己評価を行い振り返り、努力する機会を設けている。運営者は職員の自己評価には全て目を通し一人一人の状況把握に努めている。	継続していく。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談があったら入院先や自宅に本人を訪ね、利用までに数回面談をし、本人の要望を聞く。又、利用しているサービスがあればかわりのある職員に、情報提供を依頼し、本人の要望、状態の把握に努めている。	継続していく。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族等の要望を確認する為、何度も相談に応じている。グループホームの役割や理念を認識してもらう為に、ホームの見学で生活環境等のチェックをしてもらい、お互いの信頼関係を築くよう心掛けている。	継続していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族状況を見極め、他のサービス期間の情報も提案しながら面談している。満床時、受入が困難な場合でも、家族に負担が掛かっている事を考慮し、すぐにでも利用できるサービスや施設の紹介に努めている。		継続していく。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に数回訪問し、どのようなサービスかを把握して頂けるようにしている。入居後は、職員は頻回に笑顔で声かけを行い、少しでも早くホームに慣れてもらうよう穏やかな雰囲気作りをしている。又、本人家族と相談し、入居前に愛用された布団、タンス等を持ってきて頂き、馴染みのある雰囲気作りを努めている。	○	本人の言動や動作に合わせて声かけをして、「何をしようとしているか」把握するように努めている。その事で本人が新しい環境に少しでも早く慣れてもらうよう工夫していく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者の行動に合わせた声掛けを行い、洗濯物を一緒にたたんだり、料理の味付け等教えて頂きながら、一緒に作業をする事で利用者の今まで培ってきた英和を日々学んでいる。又、利用者本位の思いや感情を受け止められるよう、些細な話にも傾聴する姿勢に努め、利用者にとって安心感のある寄り添いケアを行っている。	○	個別または、集団レク、体操、コミュニケーションを行い、回想法等取り入れながら楽しくふれあい過ごしている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時に、利用者の生活状況を伝えるのは勿論のこと、毎月家族へ、ホーム内での様子等についての手紙を担当職員より送付する事で、共に利用者を支えていく関係作りに努めている。又、ホームでの行事にも、家族を参加して楽しんで頂いている。		継続していく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者と家族の意見を伺って「まるごとケアシート」を作成し、利用者と家族の関係の理解に取り組んでいる。来ホームの際は、ゆったり出来る居室へ案内し、家族との時間を設けている等配慮している。又、利用者の誕生会には家族も参加し楽しい時間を過ごしてもらう事でよい関係が深まるよう支援している。		継続していく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からの行きつけの美容室を入居後も利用されたり、お友達に会いに施設を訪ねたり、親戚の家へお茶飲みに訪問する等馴染みの関係を継続できるように支援している。また、友人、知人の方が気軽に立ち寄って頂けるよう職員は気持ちよく笑顔でお迎えし、再度訪問しやすい雰囲気作りを努めている。	○	思い入れのある場所によっては案内することが、職員だけでは実現しにくい場所もある為、家族と相談し要望に沿えるよう支援していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合える	利用者一人一人の性格を含めて関係を把握した上で、毎日の生活の中で利用者同士が会話が出来るよう職員が間に入り		継続していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後、相談等利用されている利用者や家族へは、随時話を聞いたり、助言にて対応している。又、入院している利用者のもとへ出向き利用者や家族の面会もおこなっている。		継続していく。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や行動の中で、利用者の希望や意向を汲み取るように心掛けている。利用者個別の「私はこうしてもらったら嬉しいシート」を作成し、全職員が把握できるよう努めている。	○	出来るだけ本人の希望、意向を尊重し利用者本位で対応していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者これまでの暮らし振りを聞き、以前のケアマネージャーや家族等に必ずサービス利用歴を確認している。それらを基に「まるごとシート」の作成を行って、全職員がその人らしい暮らし振りを把握した上で、ケアに取り組めるよう努めている。		継続していく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎朝、バイタルチェックを行い身体状態を把握し、又会話にて精神面の状態を把握している。その人らしく過ごせるように、一日の細やかな行動を知り、出来る事を見つけ出し出来ない事はさりげなく支援している。	○	朝礼にて利用者の把握を、職員に周知徹底していく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族に介護に対する要望や今の課題をはなしあった上で、職員間で月1回のミーティング、ケアカンファレンスを行い、問題点や解決策を導き出し、介護計画を作成している。		継続していく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画期間の見直しは勿論の事、状態に変化が生じた時はその都度、看護師・ケアマネージャーに相談し本人・家族へ報告しその後ケアプランの変更を行っている。		継続していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子・変化・行事等の気づきを、日々の記録を記入し、申し送り張りに利用して情報伝達を全職員で行い、介護計画へ反映させている。離苑や転倒の突発的な事態が生じた場合には、直ちに緊急会議を開き、対策等について話し合いをしている。	○	職員からの問いかけに対し、利用者の言葉、行動を記録し気づきを見出している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	極力、本人・家族の要望に応えられるよう努めている。病院受診、家族との外出等は、ホーム所有の車で送迎支援を行っている。又、入院している利用者の家族の都合がつかない時は、荷物を届ける等支援も行っている。	○	今後、ホームへの短期利用が可能になる事を運営推進会議にて積極的に紹介していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員の方々には概ね2ヶ月に1度行っている運営推進会議に参加して頂き、町内の消防団の方々には、ホームの消防訓練に参加して頂く等、地域の方々に協力を得ながら、利用者を支援している。又、近隣の保育園の行事(流しめんや餅つき等)に参加させてもらい子ども好きの利用者に大変喜ばれている。	○	校区の小学校の運動会等にも、今後見学にいけるよう支援していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	言語障害のある方や嚥下状態の悪い方はSTを、ADLについてOT、PTの診察を受け助言をもらい訓練などを行っている。又、急性増悪により医療の必要な方は訪問看護も利用している。	○	本人・家族の要望や必要性がある場合は随時検討していく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	法人全体の会議のときに出席してもらい必要な方は状態を検討し、ケアマネジメントについて広い視野で助言をもらっている。	○	運営推進会議に参加して、ホームの現状を把握してもらい助言を得られる機会を作っていく。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の以前からのかかりつけ医と連携し、状態など密に連絡を取り合って対応している。又、利用者の病状に応じ、いつでも往診可能な体制にしている。		継続していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	かかりつけ医の医療機関に対し、認知症に関する情報を積極的に提供していきたい。
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		継続していく。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		継続していく。
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	家族と共に過ごす時間を多く作るように支援し家族に理解して頂く。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		継続していく。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		継続していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人一人を尊重し、言葉遣いや対応を常に気をつけ、又、朝礼や職員会議などで確認し合っている。誓約書に職員が署名し個人情報の保護を徹底し、記録等も事務所に保管している。	継続していく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者のペースに合わせて同じ目線で話をし、緊張をほぐし話やすい柔らかい声で、ジェスチャーを交えて働きかけている。	○ 自己決定が出来ない利用者についても、声掛けし意思を尊重するようにしている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個人個人のペースを把握した上で、毎日「意思確認をあい、ケアをしている。利用者の思いや希望を尊重している為、食事・入浴・就寝・起床時間等は利用者によって異なる時間帯となっている。	○ 本人のしたい事としたいけれども出来ない事を、十分把握し、どこまで支援できるか職員全員で検討していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	服装に関してはまず利用者に決めてもらっているが、支援が必要な方については毎回意思確認している。髪型については本人や家族の希望を聞いて行っている。又、行きつけの美容室に家族と行かれる利用者もいらっしゃる。入浴後のお肌のお手入れや気分の良い時にはお化粧される利用者の支援もしている。	継続していく。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器の準備や後片付けは、利用者の役割とし職員と一緒にしている。可能な限り買物や調理も一緒に行い、その他にも楽しんで頂けるよう、季節の物を揃えたり好みを把握して献立や調理に生かしている。	○ 職員と一緒に食事を摂る事で、介助が必要な利用者はゆっくりしたペースで食べ、楽しい雰囲気の中で利用者の会話を引き出せるよう心掛けている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しむよう支援している	利用者が要求される物等、職員と一緒に出かけ購入し、好みの食べ物について嗜好調査を行い把握して献立に加える。又、本人の嗜好品に合わせた個別メニューを取り入れ日常生活にアクセントをつけるようにしている。	○ 以前、よく食べていた物や好きなものを家族等に持ってきてもらうよう支援している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者の排泄パターンを把握しトイレへ案内している。昼間はトイレを活用し、夜間はオムツ、ポータブルトイレ希望の利用者以外は、トイレに案内している。顔色を覗いながらその都度、場所を工夫し声の大きさを加減しながら案内している。	○	トイレでの排泄の習慣化を強化し、オムツ外しに取り組んでいく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に合わせて入浴することが出来る。ゆっくり入浴して頂く為に入浴時間については、利用者一人一人の希望や状態に合わせている。	○	入浴による羞恥心や不安、恐怖心を軽減し気持ちよく入浴できるよう工夫していく。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼間の活動が夜間の安眠につながるという考えの下で、散歩したり保育園児と交流をしたりして、生活リズムの確立を図っている。夜間不安定にて落ち着かれない利用者については、寄り添うケアを念頭におき取り組んでいる。		継続していく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が本人の役割として洗濯物をたたまれたり、茶碗拭きや掃除機をかけたり、調理の出来上がりの際は利用者が味見をしてくださる。反面、それが利用者の負担にならないように配慮している。		継続していく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所に管理している利用者、本人が管理している方に分かれている。事務所預かりの利用者も買物の時は、本人が支払いするよう支援している。		継続していく。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所の散歩は毎日の日課であり、隣の棟へ遊びに行ったり、法人の施設へ友達に会いに行ったりしている。保育園へは交流を目的に出かけて行事等にも積極的に参加している。	○	日光浴を楽しめる時期は、独歩の利用者だけでなく車椅子の利用者も庭に出て園児との交流を深めている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに	家族と自宅にて過ごされたり温泉などに外出される際は、健康状態の伝達や外出時の準備を利用者と一緒に行う等、楽しんで頂けるよう支援している。企画委員により季節毎に外	○	親戚の家の訪問等、先方の都合を聞きながら、普段行けない所へも出来る限り対応している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの要望時は、いつでも家族等へ電話出来るよう支援し、又、職員の方からも電話するよう声かけしている。手紙や年賀状のやり取りも支援している。	○	家族等と連携を取り、利用者が不安な時は電話で声を聞いて、安心して頂けるようにしている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は決めておらず、家族等がいつでも宿泊して頂けるように、布団等も準備している。職員は笑顔でお迎えしお帰りの際は、利用者と一緒にお見送りをしている。		継続していく。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修や内部研修にて職員全員で確認し合い、話し合う事で理解を深める様にしている。		継続していく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にセンサーを設置しており、裏口のドアには鈴やベルにて、人の出入りは確認出来るので鍵はかけていない。職員は徘徊の可能性のある利用者は必ず、居場所の把握をしている。		継続していく。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	何をすることも利用者の傍らでの作業に取り組んでいる。対面式の台所、玄関横の事務所は、常に利用者から見て、確認できる位置に職員が居るよう心掛けている。		継続していく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意が必要な物品は、常に職員の管理できる場所に保管している。包丁等の刃物類については、流し台の下の鍵のかかる場所に保管している。		継続していく。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	全職員が、誤嚥の可能性のある利用者を把握している。緊急時対応マニュアルを、すぐ活用出来るよう保管場所の確認を徹底し、対策方法の知識を学んでいる。又、事故に繋がるようなことが起きた際は「ひやりはっと事故記録」を作成し、会議等にて、事故防止に努めている。	○	事故防止の意識付けを徹底するよう、定期的に職員全員で研修を行っていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	同法人で行われ救命救急の技術研修を受け、参加出来なかった職員に対しても、再度勉強会を開き、全職員が緊急時に適切な対応が出来るよう努めている。マニュアルが必要時は看護師が作成し、定期的に訓練を行っている。	○	定期的にマニュアルを見直す機会を作り、勉強会を増やして職員の更なる技術向上につなげていく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の消防訓練を実施し、地元の消防団、点検委託業者、消防署の協力の下行っている。消防車を出動させ放水したり、消火器を実際使用して訓練を行っている。	○	地震、水害時の訓練が不十分なので、まずマニュアルを作成し定期的に訓練を行っている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	起こり得るリスクについて、家族等に充分説明し、書面にて同意を得ている。又、家族等と密な連携を取る事で、情報交換、対応策を決めている。職員間で話し合った対応策は、必ず家族等へ説明し、了解を得た後対応している。		継続していく。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、バイタルチェックを行い、一人一人の体調管理に努めている。変化が見られる場合は、直ちに看護師に報告し、必要時は病院受診や往診を行うよう、速やかな対応に心掛けている。	○	自分から体調の変化を訴えられない利用者については、職員が小さな気づきも確認できるよう周知徹底していく。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬の服用法については、全職員が対応できるよう薬剤情報提供書を、ファイルにまとめ把握している。定期の薬に加え臨時の薬が出た場合は、薬袋にマーカーで色を付け見分けやすいよう配慮している。服薬後、利用者の身体状態に変化のある場合は、看護師がかかりつけ医に相談し、対応している。		継続していく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	栄養士の指導の下、日々の便秘予防として、乳製品の摂取や、細かな水分補給を行っている。トイレに座る習慣が出来るような環境作り、適度な運動(立ち上がり訓練、歩行訓練、散歩等)を取り入れながら支援している。自力での排便が困難な場合、定期的な排便、坐薬、浣腸を行い、体調を崩さないよう支援している。		継続していく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援	毎食後、必ず口腔ケアの支援を行っており、義歯洗浄剤を使用して、口臭が気にならないよう配慮している。又、口腔内に異常があった場合は、歯科の協力医院の往診にて対応し	○	利用者の定期的な歯科検診を充実させ、口腔内の清潔保持の改善に取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士により、栄養のバランスの摂れた食事を、一人一人に合わせた形態にし、提供している。食事、水分摂取量は毎食後チェックシートに記入し、1日のトータル量の確保を把握している。	○	食事や水分が摂れない場合は、かかりつけ医に相談し強化栄養食品等も利用している。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	職員、入居者の手洗いを徹底しているのは勿論のこと、毎年、利用者・職員共にインフルエンザの予防接種を受けている。又、全職員がホーム作成の感染症マニュアルについて、定期的に研修を受け把握している。市から感染症に関する通知があった時は全職員回覧している。	○	マニュアルは定期的に見直し、確認を行う。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、食器類の漂白、熱殺菌消毒を毎日心がけ、冷蔵庫内の掃除、消毒も定期的に行っている。食材は毎日必要な分だけ購入し、残らないように配慮している。野菜等は畑で栽培し、新鮮で安全な食材を使用している。又、食中毒の時期には、生ものは使用せず、食材の消費期限についても、細めにチェックしている。	○	主食も直接農家から購入し、必要時精米している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	中庭に面している玄関は、季節の花々を身近に感じることができる為、一般家庭と変わらない親しみのもてるものとなっている。又、建物を囲む垣根は、建物と庭園が外からでも良く見え、開放感があり、出入りしやすい雰囲気を保っている。		継続していく。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム全体が、木の温もりと香りの感じられる建物である。食堂や居室の西日が入る窓には樹木を植え夏の暑さをしのいでいる。食堂にはソファーや椅子を置きくつろげる空間作りを行っている。又、展示物や花などの季節感が出来るよう配慮している。		継続していく。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人の居場所として、食堂はソファーやテーブルの配慮に気を配り、テーブルメイトも考えながら対応している。一角には、足を伸ばして横になれる畳スペースを設けている。又、利用者と職員と一緒に休憩できる談話室もあり、居場所作りの工夫に努めている。		継続していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に利用者、家族の要望を伺い、利用者の生活スタイルに合わせ椅子、タンス、カーペットや写真、ぬいぐるみなどを家族に持ち込んでもらっている。本人の使い慣れた馴染みの物を用意してもらっているので、一人一人が居心地良く、又、定期的に居室のレイアウトをされる家族もいらっしやり個性ある居室となっている。		継続していく。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	食堂、廊下、居室は定期的に窓を開けて換気を行っている。エアコンを使用する際は、職員に合わせた温度設定ではなく、必ず利用者に声かけし、身体状態に合わせて、共用スペース・居室の温度を調整している。暖房時は湿度には配慮し、加湿器や濡れたタオル等を利用している。		継続していく。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関、廊下、食堂等ホーム内全周に渡り、独歩の利用者が行き来し易いよう手すりを設置している。トイレ、浴室にも設置しており、自立した生活が送れるよう工夫している。	○	移動に車椅子を利用しているが、食堂にて椅子に移り食事を摂られる利用者もいらっしやる。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ケアカンファレンスにて問題点を検討し、利用者の状況を見ながら、自分で出来る事はできるだけしてもらうよう工夫している。居室には表札にて分かり易くしている。言葉かけや寄り添いも、利用者が混乱しないよう関わり方を、一人一人に合わせて行っている。		継続していく。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭の芝生にて、近隣の園児と交流したり、日向ぼっこをしたりと、楽しみながら活動できる環境作りに努めている。又、家庭菜園や花壇を設け、利用者の活動意欲を引き出す工夫も行っている。		継続していく。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input checked="" type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・利用者と職員の間で、いつも優しい言葉かけが自然と交わされ、多くの家族が、いつも気軽に面会にいらしている。地域の方が訪れると、職員だけでなく利用者も一緒に笑顔でお迎え、又お見送りされ、和やかで親しみのあるホーム環境である。
- ・職員は、生活全般を利用者が主体となって取り組んでいけるよう、認知症ケアに関する研修等に熱心に参加、学習しております。コミュニケーション障害があっても、利用者の行動・言動の思いを大切に、安心感のある寄り添うケアを心がけ、皆が笑顔で過ごせる環境作りに努めている。
- ・地域にあつてのグループホームという事を念頭に置き、地域での美化活動には積極的に参加し、これにより利用者や職員と、地域住民のふれあいを作り、信頼関係を築いている。
- ・自然が豊富な土地柄を活かし、敷地内にある畑で作った野菜を、利用者と一緒に料理している。保育園の行事にも定期的に参加したり、又天気のいい日には園児の散歩中で立ち寄り庭で一緒に楽しく過ごしている。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム清陽
(ユニット名)	みずほ館
所在地 (県・市町村名)	熊本県八代市場町
記入者名 (管理者)	岩崎ひとみ
記入日	平成 20年 11月 25日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		継続していく。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	一人一人自ら目標や1日の業務に対する意欲の喚起やケアの向上を目指している。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	地域との交流行事の時にも、もっと積極的にパンフレットを配布し、理念の浸透に取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	日常的なつきあいの一つであった、ホームで採れた野菜を近隣の方におすそ分けする機会が少なくなってきたが、散歩時に園庭に立ち寄ってもらうなど、また別のつきあい方を深めていけるよう努力したい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	今後、利用者の家の校区の敬老会等にも、参加して地域の馴染みの人達とのかかわりが継続できるよう支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	毎朝の日課となっている近隣の道路の清掃は、地域の環境美化に繋がっており、高齢者福祉施設への理解を深めて頂けるよう、ホーム見学だけでなく、同法人の他の高齢者福祉施設への見学も積極的に進めている。		継続していく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価の目的を説明し、理解している。自己評価については全職員で作成し、評価後も会議を開き、改善出来るところから実践し、問題点、改善点を「家族会」「運営推進会議」でも報告し、取り組んでいる。外部評価、自己評価の意識が常に継続できるよう、日々の生活の中で工夫している。		継続していく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は概ね2ヶ月に1回開き、情報交換、報告を行い、委員の方々にも理解を深めて頂いている。会議の後、職員会議にて運営推進会議の意見をサービスにどんな風につなげていくか話し合っており、改善、実施出来る事は実行している。	○	地域の方が参加されている運営推進会議をもっと活用し、地域高齢者の暮らしに役立つ話し合いの場を、積極的に設けたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	問題点や疑問点がある時は、市町村に出向いたり、電話連絡をして随時担当者の意見等を聞いている。又、グループホーム連絡会の研修の中で、行政からの話を聞いたりする機会に参加している。	○	積極的に関係作りを行っていく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部の研修等に積極的に参加し、必要なケースについては、検討を行っている。全職員への普及を図る為に外部研修後は、勉強会を行っている。		継続していく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修にて、全職員が虐待について意識を持ち、維持するよう話し合っている。又、入浴時等傷やアザがないか観察するよう周知徹底している。言葉かけや精神面でも気を付けている。	○	職員間で常に話合える環境作りに努めていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約に関しては、利用者や家族と充分話し合い、疑問点や不安がなく、理解し納得してもらうまで、時間をかけて説明し、同意を頂いている。	継続していく。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者と毎日個別に会話し、意見、不満、苦情を聞く機会を設けている。苦情担当者を掲示し、いつでも対応できるようにしている。	○ 第三者委員を設けている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	急病、緊急時を除いては、利用者の暮らし振りや健康状態等は、月に1回担当者よりお手紙を書き報告したり、面会時に説明している。金銭管理については、預かり書を渡し出費がある際は必ず連絡している。些細な変化については、早期の相談と報告に徹している。職員の異動に関しても面会時や手紙で報告している。	○ 家族等の面会時には、職員が必ず付き近況報告と意見を伺うよう徹底していく。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等が利用できる意見箱を設けたり、面会時に必ず職員が付いて意見を言える雰囲気を作り、話し合う機会を設けている。また、「家族会」の際には、どんな些細なことでも相談頂けるように繰り返しお願いしている。	○ 家族等から話易い雰囲気作りをしていき、意見、要望等があれば、早急に対応していく。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員会議の時だけではなく随時、意見提案を出すように促している。運営者とは月一回の法人全体の会議により提案を聞く機会を設けている。半年に1回個人面談も行っている。	継続していく。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の状況や行動に対応した余裕のある人員数を確保している。また、職員の急病などにも対応できる勤務体制とし、職員同士で話し合い調整している。	継続していく。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合	職員の異動は必要最小限に止め、馴染みの職員がケアできるよう努めている。また、新規の職員の場合は、馴染みの職員と共に対応するようにしている。	継続していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内での勉強会、研修にも職員全員で積極的に参加して、運営者の意向を把握してもらうように努めている。年度始めには、法人内の役職毎の研修を行っている。外部研修にも全職員が参加できるよう計画している。	○	個人で研修を受ける場合も参加できるよう配慮していく。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会の実施する研修に職員は積極的に参加し、認知症介護のケアに役立て、他ホーム職員との交流をし意見交換を行っている。		継続していく。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員のための個別の休憩時間場所の確保ができています。また、法人全体の職員旅行や忘年会、歓迎会等により、ストレスを軽減してもらうよう取り組んでいる。	○	運営者は半年に1回個人面談を行い、管理者、職員の意見等を聞き対応するようにしている。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	半年に一度個別に目標を設け、自己評価を行い振り返り努力する機会を設けている。運営者は職員の自己評価には全て目を通し一人一人の状況把握に努めている。		継続していく。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談があったら入院先や自宅に本人を訪ね、利用までに数回面談をし、本人の要望を聞く。又、利用しているサービスがあればかかわりのある職員に、情報提供を依頼し、本人の要望、状態の把握に努めている。		継続していく。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族等の要望を確認する為何度も相談に応じている。グループホームの役割や理念を認識してもらう為に、ホームの見学で生活環境等のチェックをしてもらい、お互いの信頼関係を築くよう心がけている。		継続していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族状況を見極め、他のサービス機関の情報も提案しながら面談している。満床時、受入が困難な場合でも、家族に負担が掛かっている事を考慮し、すぐにも利用できるサービスや施設の紹介に努めている。		継続していく。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に数回訪問し、どのようなサービスかを把握して頂けるようにしている。入居後は、職員は頻回に笑顔で声かけを行い、少しでも早くホームに慣れてもらうよう和やかな雰囲気作りをしている。又、本人・家族と相談し、入居前に愛用しておられた布団、イス、タンス等を持って来て頂き、馴染みの雰囲気作りを努めている。	○	本人の言動や動作に合わせて声かけをして、「何をしようとしているのか」把握するように努めている。その事で本人が新しい環境に少しでも早く慣れてもらうよう工夫していく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者の行動に合わせた声かけを行い、洗濯物の干し方や料理の味付け等教えて頂きながら、一緒に作業をすることで、利用者の今まで培ってきた英知を日々学んでいる。又、利用者本位の思いや感情を受け止められるよう、些細な話にも傾聴する姿勢に努め、利用者にとって安心感のある寄り添いを行っている。		継続していく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時に、利用者の生活状況を伝えるのは勿論のこと、毎月家族へ、ホーム内での様子等についての手紙を担当職員より送付することで、共に利用者を支えていく関係作りに努めている。又、ホームでの行事にも、家族も参加して楽しんで頂いている。		継続していく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者と家族の意見を伺って、「まるごとケアシート」を作成し、利用者と家族の関係理解に取り組んでいる。来ホームの際は、ゆったりできる居室へ案内し、家族との時間を設ける等、配慮している。又、利用者の誕生会には、家族も参加し、楽しい時間を過ごしてもらう事で良い関係が深まるよう支援している。		継続していく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホーム入居前からの行きつけの美容室を、入居後も利用されている。利用者、家族だけでなく、知人の方の再度の訪問も増えてきており、利用者のこれまで関わってきた馴染みの関係を継続できている。それにより、スタッフは知人の方からも馴染みの人や場所等を聞き出しやすい環境が整ってきている。	○	思う入れのある場所によっては案内することが、職員だけでは実現しにくい場所もあるため、家族と相談し、要望に沿えるよう支援していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合え	利用者一人ひとりの性格を含めた関係を把握した上で、毎日の生活に色々なレクリエーションを取り入れている。職員は、コミュニケーションが取りにくい利用者の中に自然に入	○	急に気分に変化が起きる利用者もいらっしゃるの、的確に全体を把握し、個々に働きかけることのできる見守り支援の強化に努め、利用者同士の関係が良好に保たれる

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後、相談等必要とされる利用者や家族へは、随時話を聞いたり、助言にて対応している。又、入院している利用者のもとへ出向き、利用者や家族への面会も行っている。		継続していく。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や行動の中で、利用者の希望や意向を汲み取るように心がけている。利用者個別の「私はこちらしてもらったら嬉しいシート」を作成し、全職員が把握できるよう努めている。	○	できるだけ本人の希望、意向を尊重し利用者本位で対応していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者にこれまでの暮らしぶりを聞き、以前のケアマネジャーや家族等に、必ずサービス利用歴を確認している。それらを基に、「まるごとケアシート」の作成を行って、全職員がその人らしい暮らしぶりを把握した上で、ケアに取り組めるよう努めている。		継続していく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎朝、バイタルチェックを行い身体状態を把握し、又会話にて精神面の状態を把握している。その人らしく過ごせるように、一日の細やかな行動を知り、出きる事を見つけ出し、出来ないところはさりげなく支援している。	○	朝礼にて利用者の把握を、職員に周知徹底していく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族に介護に対する要望や今の課題を話し合った上で、職員間で月1回のミーティング、ケアカンファレンスを行い、問題点や、解決策を導き出し、介護計画を作成している。		継続していく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画期間の見直しは勿論の事、状態に変化が生じた時は、その都度、看護師・ケアマネジャーに相談し、本人・家族へ報告し、その度ケアプランの変更を行っている。		継続していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子・変化・行動等の気づきを、日々の記録に記入し、申し送り帳を利用した情報伝達を全職員で行い、介護計画へ反映させている。離苑や転倒の突発的な事態が生じた場合には、直ちに緊急会議を開き、対策等について話し合いをしている。	○	職員からの問いかけに対し、利用者の言葉、行動を記録し気づきを見出している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	極力、本人、家族の要望に応えるよう努めている。受診の付き添いや入院時の早期退院への支援など、本人・家族の状況・要望に応じて柔軟に対応している。利用者の状況に応じ訪問看護を利用することもある。	○	今後、ホームへの短期利用が可能になる事を、運営推進会議にて積極的に紹介していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員の方には、2ヶ月に1度行っている運営推進会議に参加して頂き、町内の消防団の方には、ホームの消防訓練に参加して頂く等、地域の方々に協力を得ながら、利用者を支援している。又、近隣の保育園の行事(流しそうめんや餅つき等)にも参加させてもらい、子ども好きの利用者に大変喜ばれている。	○	校区の小学校の運動会等にも、今後見学にいけるよう支援していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	言語障害のある方や嚥下状態の悪い方はSTを、ADLについてOT、PTの評価を受け、助言をもらい訓練などを行っている。又、急性増悪により、医療の必要な方は訪問看護も利用している。	○	本人・家族の要望や必要性がある場合は、随時検討していく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	法人全体の会議時、センター職員に毎回出席してもらい、一人ひとりの状態を検討し、ケアマネジメントについて広い視野で助言をしてもらっている。	○	運営推進会議に参加して、ホームの現状を把握してもらい助言を得られる機会を作っていく。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の以前からのかかりつけ医と連携し、状態など密に連絡を取り合って対応している。又、利用者の状態に応じ、いつでも往診可能な体制を確保し支援している。入居者の中には、状況に応じ歯科往診による嚥下訓練を受けていらっしゃる方もいる。		継続していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	<p>かかりつけ医の医療機関に対し、認知症に関する情報を積極的に提供していきたい。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		<p>継続していく。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		<p>継続していく。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>家族と共に過ごす時間を多く作るように支援し家族に理解して頂く。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		<p>継続していく。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		<p>継続していく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人一人を尊重し、言葉使いや対応を常に気をつけ、又、朝礼や職員会議などで確認し合っている。誓約書に職員が署名し個人情報の保護を徹底し、記録等も事務所に保管している。	継続していく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者のペースに合わせ同じ目線で話をし緊張をほぐし話しやすいよう柔らかい声で、ジェスチャーを交えて働きかけしている。	○ 自己決定が出来ない利用者についても、声かけし意思を尊重するようにしている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個人個人のペースを把握した上で、毎日意思確認をし、ケアしている。利用者の思いや希望を尊重している為、食事・入浴・就寝・起床時間等は利用者によって異なる時間帯となっている。	○ 本人のしたい事としたいけれども出来ない事を、充分把握しどこまで支援できるか職員全員で検討していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容美容は本人の望む店に行けるように努めている	服装に関してはまず利用者に決めてもらっているが、支援が必要な方については毎回意思確認している。髪形については本人や家族の希望を聞いて行っている。又、入浴後のお肌のお手入れや気分の良いときにはお化粧される利用者の支援もしている。	継続していく。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器の準備や後片付けは、利用者の役割とし職員と一緒に行っている。可能な限り買物や調理も一緒に行い、その他にも見て楽しんでいただけるよう、季節の物を揃えたり好みを把握して献立や調理に生かしている。	○ 職員と一緒に食事を摂る事で、介助が必要な利用者はゆっくりしたペースで食べ、楽しい雰囲気の中で利用者の会話を引き出せるよう心掛けている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者が要求される好みの食べ物を職員と一緒に出かけて購入している。メニューにお刺身があると一緒に梅酒を堪能されたり、誕生日に本人のお好きな物でお祝いする等、工夫している。又、本人の嗜好品に合わせた個別メニューを取り入れ、日常生活にアクセントをつけるようにしている。	○ 糖尿病の入居者にも満足して頂けるよう、低カロリーのおやつ等、検討していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者の排泄パターンを把握しトイレへ案内している。昼間はトイレを活用し、夜間はオムツ希望の利用者以外は、トイレに案内している。顔色を覗いながらその都度、場所を工夫し声の大きさを加減しながら案内している。	○	トイレでの排泄の習慣化を強化していく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に合わせて入浴することが出来る。ゆっくり入浴して頂く為に入浴時間については、利用者一人一人の希望や状態に合わせている。	○	入浴による羞恥心や不安、恐怖心を軽減する工夫や配慮の強化をしていく。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼間の活動が夜間の安眠につながるという考えの下で、散歩したり保育園児と交流をしたりして、生活リズムの確立を図っている。昼寝を希望される時には、居室だけでなくゆっくり寛げるソファなども利用し、気持ちよく過ごせるよう支援している。		継続していく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が本人の役割として洗濯物を干したり、たたまれたりされる。自然と自分から進んで「これたまたもうか」とスタッフへ声をかけられることもある。又、調理の出来上がりの際の味見をしてくださる利用者もいる。		継続していく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所に管理している利用者も、本人が管理している方に別れている。事務所預かりの利用者も買物の時は、本人が支払いするよう支援している。		継続していく。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物や近所の散歩は毎日の日課であり、保育園へは交流を目的に出かけて行事等にも積極的に参加している。天気の良い日は、全員で外気浴も行っている。	○	入居者の重度化に伴い、外出が難しくなっている。遠くでなくても近場に出かけられるような外出先等、色々な支援方法を検討していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに	家族と自宅にて過ごされ外出される際は、健康状態の伝達や外出時の準備を利用者と一緒に行う等、楽しんで頂けるよう支援している。企画委員により季節毎に外出計画等を行っ		継続していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの要望時は、いつでも家族へお電話出来るよう支援し、話しやすいようコードレスの電話を使用している。そのため利用者が不安な時でも、居室にて声を聞いて安心できる雰囲気作りに配慮している。又、手紙や年賀状等のやり取りも支援している。		継続していく。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は決められておらず、職員は笑顔でお迎えしお帰りの際は、必ず利用者と一緒にお見送りをしている。又、家族がいつでも宿泊して頂けるように、布団等を準備している。		継続していく。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修や内部研修にて職員全員で確認し合い、話し合う事で理解を深める様にしている。		継続していく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にセンサーを設置しており、人の出入りは確認出来るので鍵はかけていない。鍵を利用されない利用者の居室は、鍵にカバーをかける等して工夫している。		継続していく。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	何をすることも利用者の傍らでの作業に取り組んでいる。対面式の台所、玄関横の事務所は、常に利用者から見て、確認できる位置に職員が居るよう心がけている。特に所在を確認することが必要な場合は、職員同士連携して、確認しあっている。		継続していく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意が必要な物品は、常に職員の管理出来る場所に保管している。包丁等の刃物類については、流し台の下の鍵のかかる場所に保管している。日常生活の中で利用者へ危険と感じられた時には、その都度、職員で話し合い、報告して対策を検討している。		継続していく。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	全職員が、誤嚥の可能性のある利用者を把握している。緊急時対応マニュアルを、すぐ活用できるよう保管場所の確認を徹底し、対策方法の知識を学んでいる。又、事故に繋がるようなことが起きた際は「ひやりはっと事故記録」を作成し、会議を行って、再発防止に努めている。		継続していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	同法人で行われた救命救急の技術研修を受け、参加できなかった職員に対しても、ミーティングにて再度勉強会を開き、全職員が緊急時に適切な対応ができるよう努めている。又、緊急時対応マニュアルを作成し、看護師の指導の下、定期的に訓練を行っている。	○	定期的にマニュアルを見直す機会を作り、勉強会を増やして職員の更なる技術向上に繋げていく。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の消防訓練を実施している。地元の消防団、消防署の協力の下、消防訓練を行っており、緊急時には、地域ぐるみで災害に備えている。	○	地震、水害時の訓練が不十分なので、今後定期的に訓練を行っていく。
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族との密な連携をとることで、情報交換、対応策を決めている。職員間で話し合ったリスク対応策は、必ず家族へ説明し、了解を得た後、対応している。		継続していく。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、必ずバイタルチェックを行い、一人ひとりの体調管理に努めている。変化が見られる場合は、直ちに看護師に相談し、必要時は、病院受診や往診を行うよう、速やかな対応に心がけている。		継続していく。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の服用については、全職員が対応できるよう、薬剤情報紙を活用し、把握している。1回に複数の薬を服薬される利用者に対しては、薬袋にマーカーで色をつけ、薬が見分けやすいよう配慮している。服薬後、利用者の身体状態に変化のある場合は、かかりつけ医に相談し、指示を頂いている。		継続して行く。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	栄養士の指導の下、日々の便秘予防として、乳製品の摂取や、細めな水分補給を行っている。トイレに座る習慣が出来るような環境作り、適度な運動(ラジオ体操)も取り入れながら支援している。又、身体機能によって自力での排泄が難しい利用者に対しては、定期的に浣腸を行って、体調を崩さないよう支援している。		継続していく。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、口腔ケアを実施している	毎食後、必ず口腔ケアの支援を行っており、義歯洗浄剤を使用して、口臭が気にならないよう配慮している。又、必要な場合は、定期的に歯科検診を行い、舌苔の除去等、専門的にお	○	利用者の定期的な歯科検診等を充実させ、口腔内の清潔保持の改善に取り組んでいく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の下、カロリー計算された食事を、一人ひとりに合わせた形態にし、提供している。食事・水分摂取量は、毎食後、チェックシートに記入し、一日のトータル量の確保を把握している。		継続していく。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	職員、入居者の手洗いを徹底しているのはもちろんのこと、毎年、利用者・職員共にインフルエンザの予防接種を受けている。又、全職員が、ホーム作成の感染症マニュアルについて学び、把握している。感染症に対する市からの通知があった毎に、全職員に回覧している。	○	定期的に見直し、確認を行う。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、食器類の漂白、熱殺菌消毒を毎日心がけ、冷蔵庫内の掃除、消毒も定期的に行っている。食材は毎日必要な分だけ購入し、残らないよう配慮している。又、食中毒の時期には、生ものは控え、食材の消費期限についても、細めにチェックしている。		継続していく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	中庭に面している玄関は、季節の花々を身近に感じることができるため、一般家庭と変わらない親しみのもてるものになっている。又、建物を囲む垣根は、建物と庭園が外からでもよく見え、開放感があり、出入りしやすい雰囲気を保っている。		継続していく。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム全体が、木の温もりと香りの感じられる建物である。食堂は、ゆったり座れるようソファを置いたり、居室や居間に面した窓から西日が入らないよう樹木を植え、くつろげる空間作りを行っている。又、展示物や花などで、季節感がでるよう、配慮している。		継続していく。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの居場所として、食堂は、ソファやテーブルの配置に気を配り、一角には、足を伸ばして横になれる畳スペースを設けている。又、気の合う利用者と集える談話室もあり、居場所作りの工夫に努めている。		継続していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に利用者、家族の要望を伺い、入居者の生活スタイルに合わせ、椅子・机・カーペットや写真などを家族に持ち込んでもらっている。本人の使い慣れた馴染みの物を用意して頂いているので、一人ひとりが居心地良く、個性ある居室になっている。		継続していく。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	食堂、廊下、居室と、定期的に窓を開けて換気を行っている。エアコンを使用する際は、職員に合わせた温度設定ではなく、必ず利用者に声かけし、身体状態に合わせて、共用スペース・自室の温度を調整している。特に、湿度には注意し、居室には加湿器を利用している。		継続していく。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関、廊下、食堂等ホーム内全周にわたり、独歩の利用者が行き来しやすいよう手すりを設置している。トイレ、浴室にも設置しており、自立した生活が送れるよう工夫している。	○	各居室の家具による転倒防止に向け検討中。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ケアカンファレンスにて問題点を検討し、利用者の状況を見ながら、自分で出来る事はできるだけしてもらうよう工夫している。居室には、利用者が作成した名札などをかけて、分かりやすく、又、愛着がもてるようにしている。言葉掛けや寄り添いも、利用者が混乱しないよう関わり方を、一人ひとりに合わせて行っている。		継続していく。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	園庭の芝生にて、近隣の園児と交流したり、日向ぼっこをしたりと楽しみながら活動できる環境作りに努めている。楽しみながら活動できる環境作りに努めている。又、家庭菜園や花壇を設け、利用者の活動意欲を引き出す工夫も行っている。		継続していく。

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・どんな方でも食事は楽しみの一つです。清陽では、自然の豊富な土地柄を活かし、一人ひとりの好みや力に応じて、共に家庭菜園や畑で野菜を作り、それを一緒に料理し、味わい楽しむことを大切にしています。
- ・一般家庭のような「ただいま」「おかえり」の挨拶が、利用者と職員間で自然と交わされ、県外の家族も積極的に面会にいらっしゃるなど、利用者にとって親しみのあり、皆が笑顔になれるホーム環境に力を入れています。
- ・認知度の重度化した方や、コミュニケーション障害のある方でも、主体となって、その人らしく生きがいを持って生活できるよう、職員は、認知症ケアに関する研修等への参加、学習に積極的に取り組み、情報を共有し合うことを徹底しながら、利用者一人ひとりに寄り添うケアを心がけています。
- ・利用者、家族が安心し、充実したケアが提供できるよう、職員は、365日24時間、管理者と看護師への連絡体制が整っています。
- ・地域あつてのグループホームという事を念頭に置き、地域住民の触れ合いや、保育園の園児との交流も活発で、開かれたグループホームとして、地域の中に根付き、貢献できるよう努力しています。